

V 交通システムの計画

広大で南北に長い敷地を持つ本学にとって、交通は大学の諸活動を円滑・安全に行うための重要要素である。

交通計画にあたっては、現在の交通環境を点検し、①静かで安全性の高い交通環境の実現、②交通事故の防止、③交通の整序化、④環境・バリアフリーの重視を基本とする。

（歩行空間の整備）

1. ペデや歩道の舗装の劣化や樹木の根による不陸は需要や状態に応じて計画的に改修する。その際、舗装材には可撓性があり再使用が可能なアスファルトやインターロッキングブロック等を使用する。要所に溜りとなる空間を用意しアメニティを高め賑わいを創出する。真っ暗な歩道には街灯を設置する。横断歩道には街灯の設置、視野の妨げとなる樹木の伐採等を行い安全性を高める。

ペデとループ道路を結ぶ幅員 4 m 程度の副空間軸（サブペデ）を整備し、歩行者路ネットワークを形成し歩行空間に豊かさと広がりを与える。また、サブペデは歩行者自転車専用道路からのアクセス路としても重要である。

（自転車の交通環境の整備）

2. 自転車は学内移動の重要な交通手段であり、環境にも優しい乗り物であることから、その利用を促進する交通環境形成を目指す。しかし、一方で本来歩行空間であるペデが自転車で溢れ歩行者との接触事故や迷惑駐輪等の問題が生じている。これらの問題を改善し自転車との共存を図るため、ループ道路の内側に幅員 4 m 程度の歩行者と自転車が区分できる色分けとした専用通路と、それに付随して建物周辺に駐輪場を整備する。

また、この専用道路への外部からのアクセス通路を整備する。

（自動車の交通環境の整備）

3. 交通安全や環境への影響を考慮し、自動車への依存低減を図ることが脱自動車・環境共存型都市構造の先駆けとなる。

道路施設の老朽化が進み、路面不整や陥没による事故や大雨時に深い水溜まりが生じている。これに対する計画的な改修を行う。

駐車場は、既に当初計画の 3 倍の容量が設けられており、その維持管理に要する経費も膨大である。当面、ゲート化の継続等により利用効率の向上と利用環境の改善を図るとともに、今後は、アカデミック・コア内の建物整備に伴う新たな駐車場は設置しない。（法的に必要な場合を除く）駐車場を必要とする場合は、ループ道路の外側に配置する。

また、本学におけるカーシェアリングシステムの実証実験の進展に合わせた環境整備を図る。

（公共交通機関の活用）

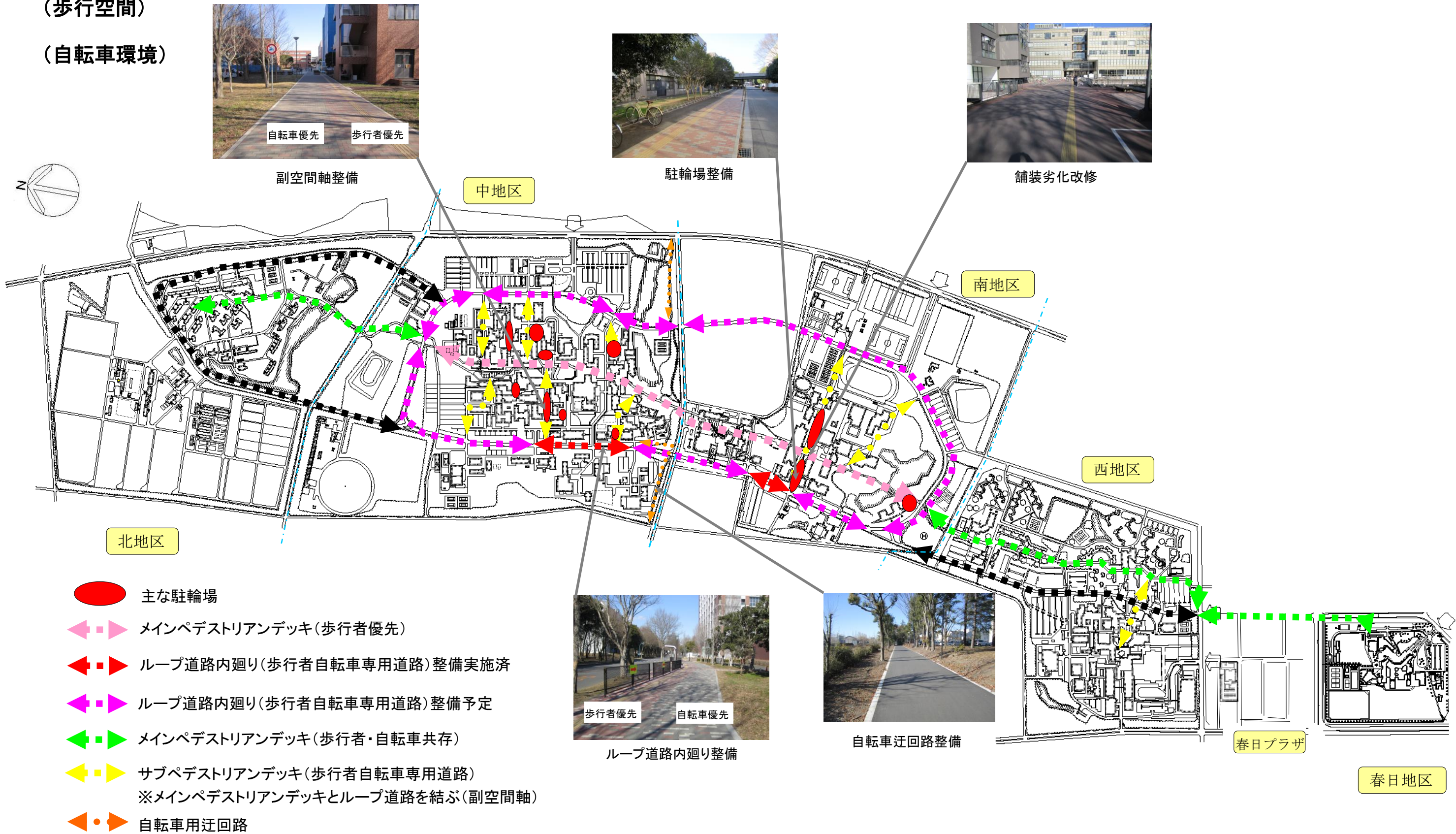
4. つくばエクスプレスの開業に合わせて、学内連絡バスに代わり既存の路線バスを活用した学内交通システムを導入しており、引き続き、エコ通勤としての公共交通機関の活用を推進する。

また、つくばイノベーションアリーナ（TIA）をはじめとする関係機関との連携推進のため、大学、産総研、物材機構等、大学とつくばセンター、各研究機関間の交通アクセスの拡充を図る。

交通システムの計画

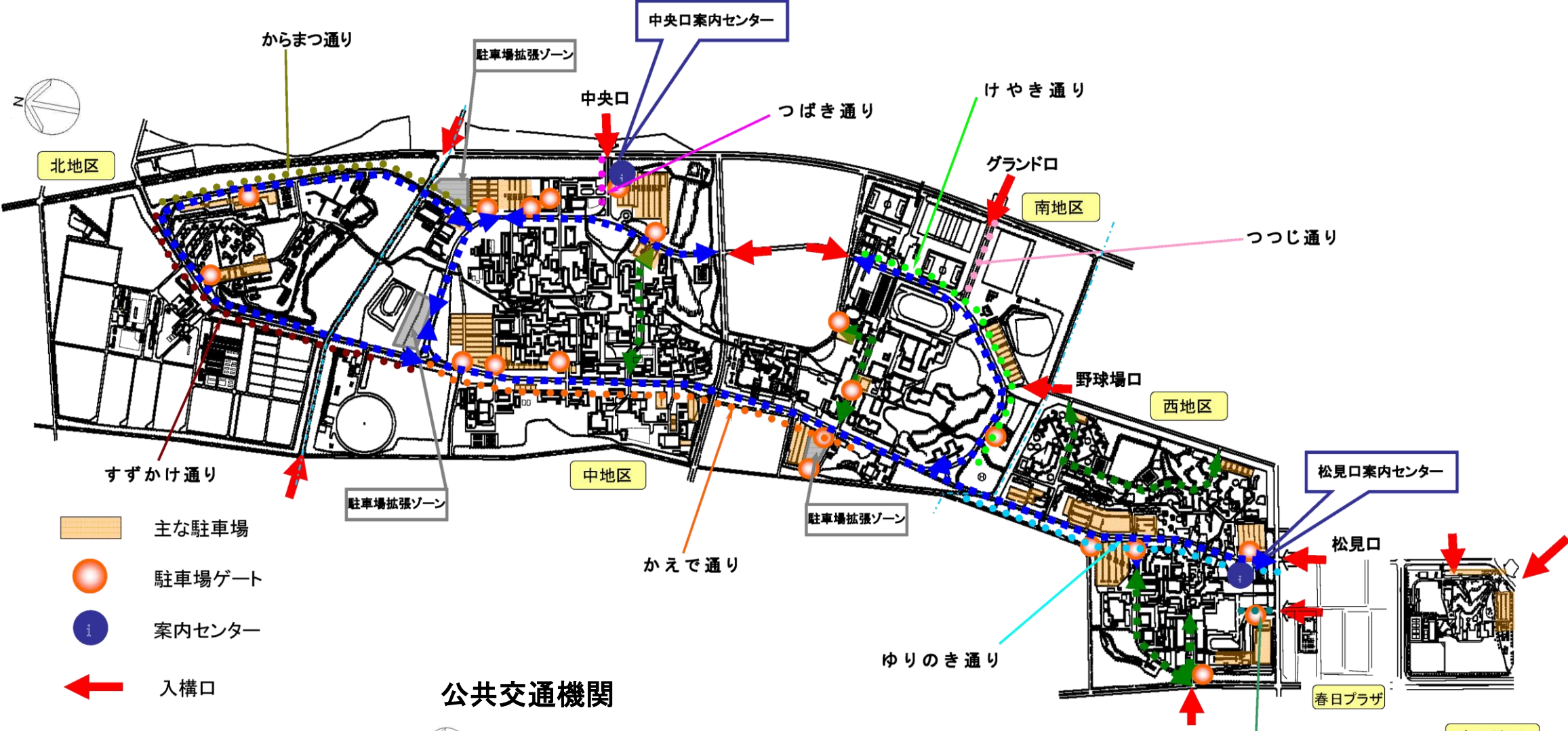
(歩行空間)

(自転車環境)

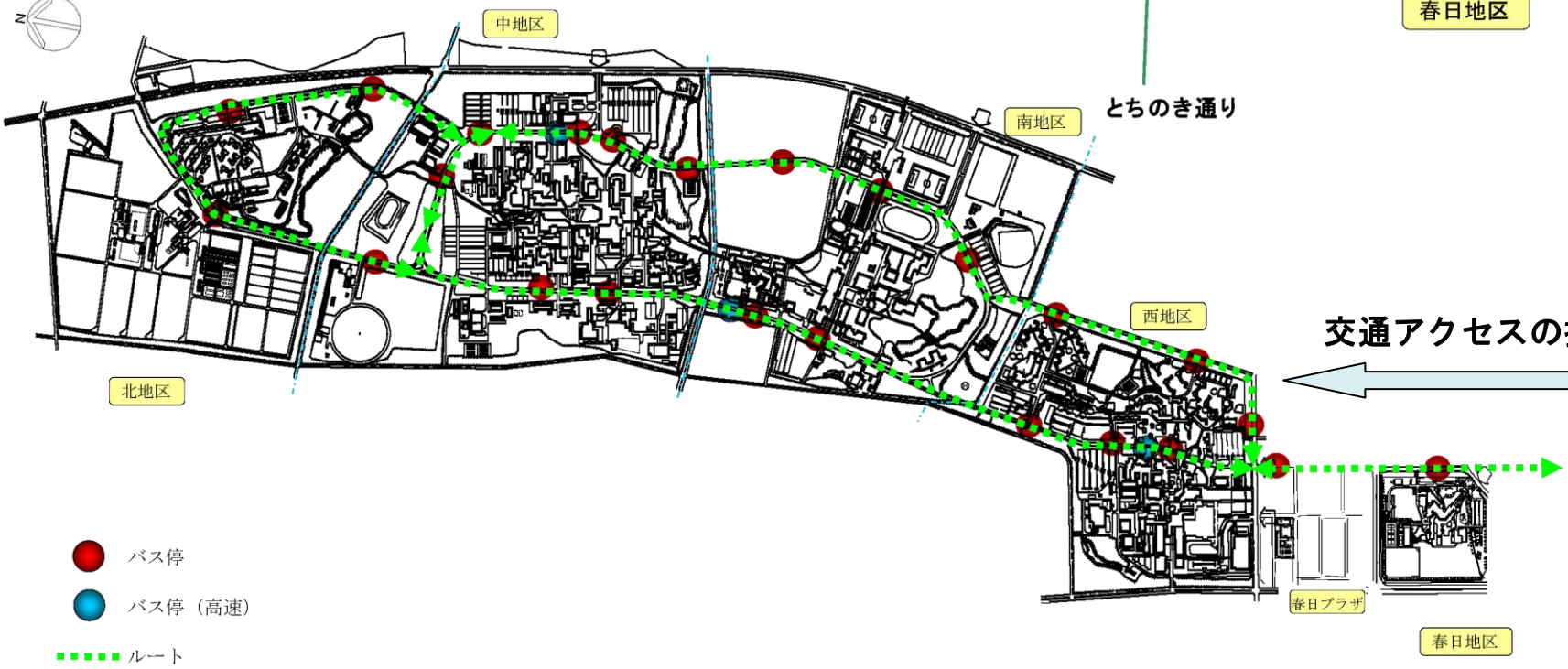


交通システムの計画

(自動車環境)



公共交通機関



交通アクセスの拡充

